

# 地域活性化という「遊び」

48

京都市  
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

三記 録的な暖冬で  
今年はまだ一度も

雪かきをしていません。

おかげでまとまった時間が取れると  
いうこともあり

農場レストランの繁盛期に

気になりながらも出来ていなかった

キッチンや収納の

修理や改装を進めています。

時間があると

いろいろな面から

深く考えることができるので

一部修理のつもりが

根本的にレイアウトから

見直すことになったり

どんどん進めていくうちに

修理や改装というより

これは改良と言った方が

言葉としてはピッタリと当てはまるよ

うな気がしました。

普段何の疑問も持たず使っていた

キッチンや収納が

実はとても効率が悪かったというこ

とに気がついたりすると

なぜこんな簡単なことに

今まで気がつかなかったのかと

今年の冬のように深く考える時間の

必要性を強く感じました。

忙しさのあまり

考えることを忘れてしまって

いつの間にか物事の繰り返しに

慣れてしまうのは

とても危険なことだなと思います。

子供たちは

包丁だけでなく

鑿のみや鉋かんも研ぐようになり

それにつれて

大工仕事のレベルも上がってきて

ある程度安心して

任せることができるので

## キッチンや収納を作り変える

## 謎解き遊びの面白さ



キッチンの戸棚は  
お客さんの目につくところなので  
デザインも工夫してもらいました。

その改良作業を日々バリバリ手伝っ  
てくれています。

子供たちが小さな頃は  
何かを作ると言っても

気持ちばかりが前に行くので

クオリティーは二の次。

自分たちの目標に似たような形にな

れば

それでOKはい出来上がり！

というように

物事をやり始めるということに

重点を置いていたので

作るもの自体に完成度は

あまり要求しませんでした。



スッキリ整理ができると仕事もしやすい気持ちまで良くなります。お客さんも同じでしょうね。



古くて掃除がしにくかった洗面所を改良。釘が表面に出ないように工夫しています。



上達してきましたので良い道具も使わせて手入れを学んでもらいます。



兄貴たちが物作りすると妹もつられてやります。今回はバターナイフ。

しかし最近はいくつかの理由から少し時間をかけても良いから作ったものの使い易さから完成度そして出来上がったものの美しさまで自分たちでしっかりと意識するようにと子たちには声をかけています。扉などの建具を作る場合水平や垂直の確認や接続部分に隙間がないようにしておかないと悪くすると開け閉めが

できなくなったりします。そういうことにならないように差し金で墨を付け鋸で正確に切り鉋で微調整をしますが見た目も美しくなると墨付け前に木の裏表や上下を確認することも必要になってきます。木の裏表はまだしも木の上下はわかりにくいのでちょっと大変なのですが子たちはそんなことどこ吹く風。

そんなところを一つ一つクリアするのがなかなか面白いのとでも楽しそうに取り組んでいます。途 中思いもよらない問題にぶつかっても難問ほど解くのが面白いと熱中しご飯を忘れることもしばしばですが難しいことにしっかりと取り組んで自分の力で解決できると自信がつくし出来上がったものに以前にも増した使い勝手や美しさを感じられると改良することの必要性や意味がわかりそれはますます楽しいものになります。当たり前になり返される物事を見つめ直し新しく作り変えるというのは大抵の大人は尻込みしますが子供たちのようにそれを謎解きの一種と捉えられればどんな問題もウエルカム。難しければ難しいほど面白い。この遊び今年もみんな楽しんでいきたいと思えます。